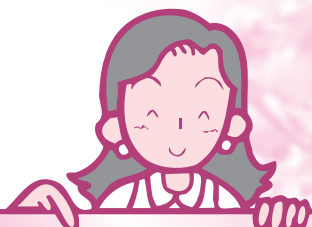


一般質問



もっと詳しく!!

もっと詳しく財政再建、福祉問題、企業誘致... etc聞かせてちょうだい。

3月9日、10日、11日に行われた質疑・一般質問には、16人の議員が演壇に立ち、議案や市政全般にわたり活発な質問が展開されました。その一部を紹介します。

年末のみ収集について

Q 昨年末、家庭ゴミは26日が最後の収集日で、それ以降はクリーンセンターが大変込み合っ

た。大半の近隣市は30日まで、また姫路市は31日まで収集。加西市も可燃ゴミだけ30日を臨時的に市内一斉収集日にできないか。

A クリーンセンターの受入れは、例年と同様29、30日の2日間稼働。2

日間でゴミの量が昨年比それぞれ4割増、6割増。特に、車の渋滞が一時300メートルを超え、剣坂町の交差点まで達し、本庁の職員も手伝い乗り切った。29、30日のターミナル収集も検討したが、加西市の場合パッカー車が収集後センターの中へ簡単に入れないので断念した。小野市と西脇市は車の台数が加西市の約半分、三木市はスケール計りが2台あり場内処理がスムーズなどの理由で収集が可能なようだ。

今後は、ストックヤードを活用、昼休みの交代制、小銭

の用意の呼びかけ、ガードマンの手配、ターミナルへのゴミ出しを徹底し、持込の自粛の呼びかけ、計量器のリースや増設、計測周りの動線の改善などを検討し、通常収集の方向に向けて考えたい。



二年後のゴミ指定袋制導入の内容は

Q 平成18年度から指定袋制度による収集が行政改革の中にうたわ

れている。2年間のようにして指定袋制に移行されていくのか。

A シール券制度は、開始した平成6年度は約20%のゴミ量が減少した。

その後野焼きが禁止され週2回収集の昨今、無料券に加え1枚100円の有料券を購入する家庭が激増している。規定を超える袋が増え、袋の統一は必要不可欠。シール券の経費は、印刷経費、仕分け経費、配布経費等も含めて約300万円。収集処理経費も年々かさむなか袋の統一とあわせて有料化を考えている。

メリットは、まずゴミの減量効果。その他、シール券の購入や年度にとらわれずに済むというメリットもある。また所帯分離の不公平感、区長さん等の手間もなくなる。何種類かの袋でゴミの量に合った使い分けができ、ダイオキシン防止袋の導入も可能。行政のメリットは、大きく重い袋の除外、年度チェックの省略、シール券経費の削減、市外のゴミの排除などがある。

袋の料金、種類、販売方法・場所、減免制度、市民への理解の求め方、不法投棄対策などの検討課題はあるが、すべて白紙の状態。施行までの2年間、市民の声や意見を十分聞き、反映させていきたい。